

論壇

インパクトある協定

TPP（環太平洋連携協定）が大筋合意になって、いろいろな情報新聞紙上に出てきた。こうした報道を見ても分かるように、TPPは経済全体に大きなインパクトのある協定である。日本にとっては、通商政策について、20年に一度あるかないかの大きな出来事であり、その影響は経済のさまざまな所に長期にわたって広がっていくことだろう。

一般的に、戦後の主要国を見るかぎり、貿易自由化によって経済が悪くなった国はない。戦後の日本やドイツの経済成長はGATT（関税貿易一般協定）の下での貿

伊藤 元重

東大教授(国際経済学)

易自由化なしには考えられない。北米の3国の米国・カナダ・メキシコは、1990年代に成立した北米自由貿易協定（NAFTA）を契機に経済成長を加速化させている。中国にとっては、2002年にWTO（世界貿易機関）に加盟するために行った大胆な貿易自由化が、その後の成長の重要な要

因となったのだ。TPPによって日本経済がどの程度の恩恵を受けるのか、学者の世界でもいろいろな研究成果が出ている。それを見るかぎり、世の中で考えられているよりは大きな経済効果があるようだ。農業関係の方々の中には、TPPによって国内農業が壊滅的な被害を受ける

TPP、ピンチをチャンスに

と云う方もいる。しかし、TPPは農業者にチャンスをもたらすという面があることも忘れてはならない。上で述べた北米自由貿易協定の時も、カナダのワイン業者はカリフォルニアから安く質のよいワインが大量に入ってくることを恐れた。しかし、現実には起きたこと

は違った。カナダの生産者はカリフォルニアのワインとは違うワインを生産しようと努力した。その結果、カナダの冷涼な気候を使ったアイスワインの品質を上げるとに成功した。カリフォルニアのワインとの競争は、カナダのワイン業界を破壊するどころか、かえって強化する結果となった。

今や、米国の高級レストランのメニューを見ると、カリフォルニアワインと並んでカナダのワインが多く載せてある。それもアイスワインだけでなく、さまざまなワインが並んでいる。米国の貿易の自由化によってカナダの消費者はより安くカリフォルニアワインを購入できるようになったかもしれないが、同時にカナダのワイン生産者はより大きな米国市場での販売を拡大することができたのだ。

付加価値高める努力

似たような話が日本でもある。米国のチェリーの輸入自由化に日本が大きく揺れたことがある。これで山形のサクランボが駄目になると危惧された。しかし、チェリーの自由化に対応して山形の生産者は努力して、素晴らしいサクランボを作り、結果的には販売を伸ばすことができた。「チェリー」と「サクランボ」は同じ商品ではなかった。

山形の方が言っていた。「かつて山形のサクランボは缶詰に入れるような付加価値の低いものだった。しかし、米国のチェリーに負けないようにという危機感から、品質の高いサクランボを作るようになった。チェリーの輸入自由化がなければ、山形のサクランボ産地は駄目になっていたかもしれない」と。日本全体としてはTPPから大きな恩恵を受けるとしても、農業者には大変な試練かもしれない。だからこそ、TPP締結をピンチではなくチャンスであると考えてほしいものだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。